

もの言う牧師のエッセー 第41話 ④「沙保里の肩車！」

ロンドン・オリンピック小話

五輪 14 日目、レスリング女子 55 キロ級決勝で吉田沙保里が見事カナダのトーニャ・バービーク選手を下して金メダルを獲得、アテネ、北京に続く五輪三連覇の快挙を成し遂げた。彼女は開会式では自ら志願して旗手を務め、「“女性旗手は金メダルを取れない”というジンクスを打ち破る！」と宣言していたが、公約どおりジンクスをも打ち破った。

が、ここまでの道は決して平坦ではなかった。五輪三連覇の重圧とジンクス、女子W杯団体戦で負けた時のトラウマ、試合前は失敗の恐怖で殆ど眠れなかったという。しかし終わってみれば完勝、4 試合で失点ゼロ、最高の形で締めくくり笑顔爆発、沙保里は最後まで涙を見せなかった。その代わり彼女得意の宙返りをし、今大会で初めてセコンドについていた、元レスリング全日本優勝者の父栄勝さんが彼女を抱きしめようと近寄り手を広げたところを、逆に父を担ぎ上げ軽々と肩車してしまった！「父を肩車したい」、大会前の彼女の口癖だった。

晴れ舞台で自分だけがスポットライトを浴びるのではなく、これまでレスリングを教え導いてくれた父を称え、恩に報いたのだった。これはイエスの有名な言葉

「あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、

わたしの父は栄光をお受けになるのです。」

ヨハネの福音書 15 章 8 節

そのままだ。人間が日々成し遂げる様々な功績について、我々はつい自分の手柄にしてしまいがちだ。そうではなく、無事に導いてくださる神を崇め感謝すべきと彼は言う。これを聖書では「神に栄光を帰す」という。吉田選手が自分ではなく父に栄光を帰したように、我々もまたキリストの十字架の死と復活を信じ、神を称え栄光を捧げよう。

2012-8-17

